

## 有機JAS適合技術によるジャガイモ有機栽培体系

## 目的と特徴

- ・ジャガイモ栽培で問題となる病害（そうか病、疫病等）に対して、有機JASに適合した防除技術を体系化し、可販品収量が大幅に増加することを明らかにできました。
- ・環境への影響を評価すると、ジャガイモの可販品収量あたりの環境負荷は現地慣行有機栽培と比較して小さくなりました。

## 圃場の準備

2～3月  
種いもの準備3月  
施肥  
植付け5月  
除草6月  
疫病防除7月  
収穫

## 輪作体系

ヘアリーベッチ、レタス、トウモロコシを取り入れた輪作を行い、同一圃場へのジャガイモの植え付けは3年に1作とします。

	前作	1年目		2年目		3年目
技術実証区	ジャガイモ	ヘアリーベッチ	レタス	ヘアリーベッチ	トウモロコシ	ジャガイモ
慣行有機区	ジャガイモ	ジャガイモ	ハウレンソウ	ジャガイモ		ジャガイモ

## 種いも消毒

銅水和剤(コサイドボルドー\*:50～100倍希釈液 20分間種いも浸漬)による種いも消毒を行います。

## 施肥

土壌の性質由来する農地の生産力の維持増進を図る肥培管理を行います。(有機農産物の日本農林規格より)

## 有機物の施用

そうか病の発生しにくい土壌に改良するために、植付け当日に米ぬかを10a当たり600kgの割合で土壌に全面混和します。

## 除草

機械除草(畦間の中耕)2回  
手取り除草 1回

## 疫病の防除

銅水和剤(Zボルドー\*:400倍希釈液)を開花期ごろから1週間間隔で3回散布します。



\*:平成24年12月1日現在ジャガイモに農薬登録があり、有機栽培への利用が可能です。

## 成果

- ・銅水和剤による種いも消毒により、そうか病菌のほ場への持ち込み防止を図ります。
- ・銅水和剤の散布により疫病の発生を軽減させ、ジャガイモの収量の安定化を図ります。

## そうか病の発生状況

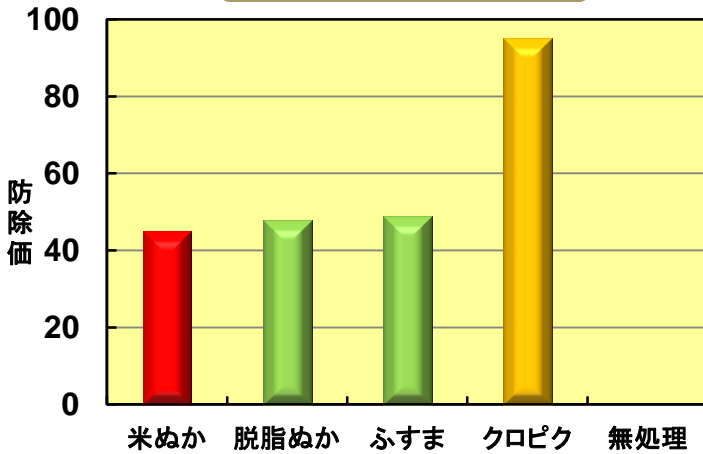


図1 米ぬか等の働き込みによるジャガイモそうか病防除効果

注. クロピク：クロピクリンくん蒸剤(有機栽培には使えません)。数値は、中央農研ほ場での試験結果です。米ぬかの代わりにふすまや脱脂ぬかでも同様な効果が得られます。

## 可販品収量

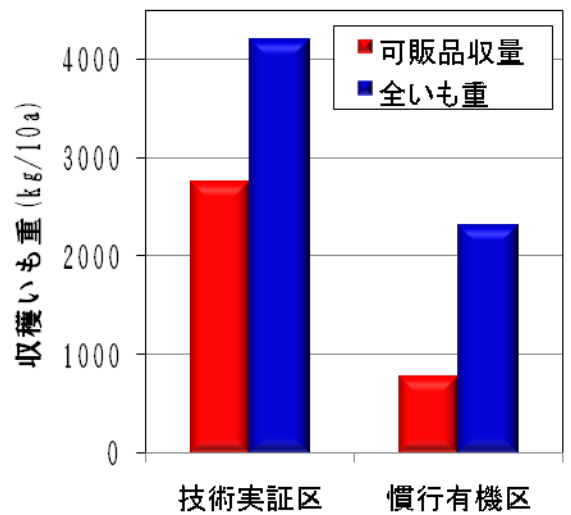


図2 技術実証圃の収穫いも重と可販品収量

## 疫病の発生状況

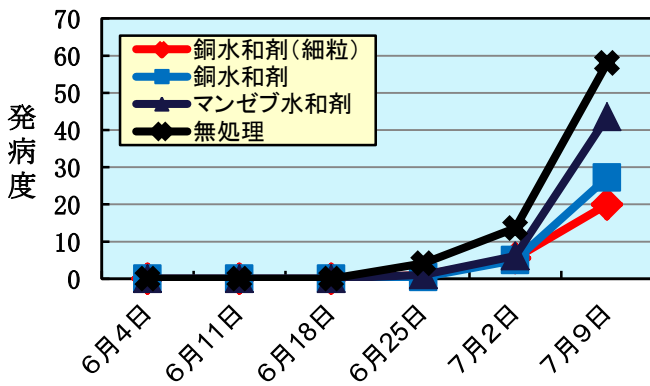


図3 銅水和剤散布区のジャガイモ疫病発病推移

注. マンゼブ水和剤は、有機栽培には使えません。数値は、中央農研ほ場での試験結果です。

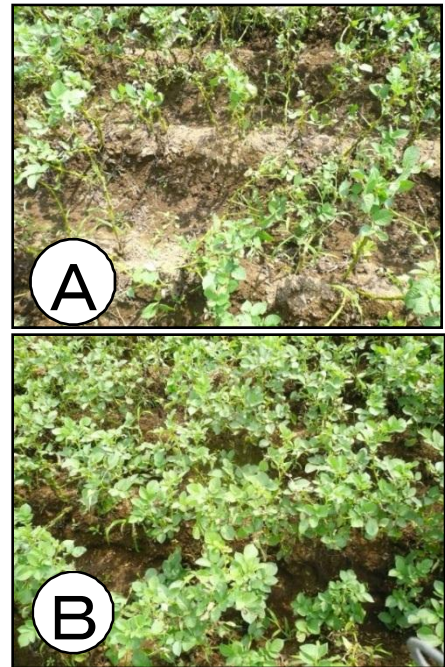
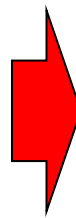


図4 ジャガイモ疫病防除の有無による地上部の生育状況の差異

A: 無防除, B: 疫病防除(銅水和剤処理)

### 対象作物、普及対象

- ・ジャガイモ、関東以西

### 対象農家

- ・慣行有機栽培農家、新規有機栽培参入者

### 必要な道具

- ・特になし

### 関連HP (成果情報)

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/laboratory/narc/manual/046975.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/narc/manual/046975.html)

### その他

- ・農薬情報は平成24年12月1日現在のものです。最新の登録情報をご利用願います。